

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401178		
法人名	社会福祉法人朝日福祉会		
事業所名	グループホーム花応園		
所在地	長崎県雲仙市国見町神代甲952		
自己評価作成日	令和3年7月15日	評価結果市町村受理日	令和3年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有明海を望む高台に、通所介護、有料老人ホーム、支援ハウス、高齢者専用賃貸、保育園等の施設があり、施設間の交流もあり、(今年度は、コロナウイルスの影響により、ほとんどの行事が行えてない)運動場で遊ぶ園児の姿も見られ、喜んでいらっしゃいます。 毎日、入院の時間を設けているので、ゆっくりと、入浴をたのしんでいらっしゃいます。 職員と利用者のふれあいの時間として、食後の時間を大切にしています。 職員一同、皆様が明るく、元気に楽しく、その人らしく、暮らせるように支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは有明海を望む高台に立地し、周囲を豊かな自然に囲まれている。敷地内には同法人が経営する通所介護、有料老人ホーム、保育所等があり、連携が図られている。協力医である愛野記念病院から月1回の訪問診療や、週1回の理学療法士の訪問があり、入居者の健康とADLの維持・向上に取り組んでいる。入居者への入浴支援を毎日実施し、清潔が保たれ、気持ちよく過ごすことができている。コロナ禍の中、日々感染対策を講じ、できる限り家族との面会を制限しないような取り組みを行っている。管理者を含め、職員のチームワークが良く、相談しやすい環境が整っており、職員は笑顔で入居者や来訪者に接し、ホーム全体が明るい雰囲気包まれている。敷地内には複数の介護サービス事業所があることで地域の支えとなっている。各事業所が相互に情報交換・情報共有・切磋琢磨することで、今後も地域の中核を担うより良い介護サービスの提供が大いに期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 花応園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で自分らしく過ごす、と言う理念を掲げ頑張っています。	法人の設立時より『生き生きと過ごして頂く、気持ちよく過ごせる、喜んで頂ける、誠心誠意前向きに、わがままが自然に言える雰囲気づくり』の理念を掲げ、日々の業務を行っている。理念を食堂に掲示し、業務中でも職員が確認できるようにしている。理念を定期的に振り返る機会を設け、介護サービス質の向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度は、コロナウイルスの感染予防のため、外部との交流はほとんど出来ていない。リモートによる、会議に参加している。	コロナ禍前は、近隣の中高生の福祉体験やボランティアの受け入れを行っていた。ホームとして自治会には加入していないが、入居者は近隣の方が多く、地域の敬老会の時などは、地域の方が饅頭などを持って来訪していた。尚、現在は感染予防のため外部との交流は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、町の文化祭に参加しているが、行事が中止になり、参加できてない。今後、開催される時は、参加する予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束や、利用者の状況報告、自己評価、外部評価の報告等を行っている。	感染対策を講じ運営推進会議を実施している。家族にも推進会議への参加を促し、順番で参加してもらっている。地区の民生委員も参加し、地域の情報を提供してもらい運営に活かしている。職員は交代で参加し、会議での情報は他の職員とも共有しながらサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査の方や、推進会議の担当者には、伝えている。	市の職員も運営推進会議に参加して日頃より情報交換を行っている。住所地特例による受け入れ方法など、ホームとして判断に迷うときには市担当者に相談し助言を得ている。主な書類の受け渡しについては、同法人の事務所職員が行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、グループホーム協会の研修や広域圏市町村組合の研修に参加していたが、昨年度は、中止の為、参加できていない。 運営推進会議では、報告している。	身体拘束を行わないケアに努めているが、左麻痺で左下肢の進展拘縮のある入居者に対して、車イス移動時に危険防止の為、同意を得た上で左下肢の固定を行っている。業務中に「待って」「座ってて」などの言葉を、とっさに使ってしまう事があり、課題意識を持って取り組む意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ぐう		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要な方はいらしゃらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に、対して契約時に、説明している。 要望も尋ねる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置いているが、ほとんど回答がない。	面会時や運営推進会議の際に家族から意見を聴取している。ホームの行事や運営状況については、毎月1回、入居者個々に便りを作成・発行し、報告を行っている。入居者との面会は十分な感染対策を行った上で可能としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議で情報交換、行事予定等、話し合っている。	日々の申し送りや、定期、臨時に実施する職員会議で職員間の情報交換を行っている。代表者と定期的な個別面談は行っていないが、管理者と業務中でも気軽に相談できる環境にある。必要な物品等がある場合は気づいた職員が購入リストを提出して管理者が確認し購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分たちの思いどおりに、運営させて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得試験等、受けるように声かけしている。昨年度は、コロナウイルスの影響で中止、ほとんど、参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の役員会や、研修で情報交換しているが、役員会等なかなか、かいてきてない。やっと、リモート会議が、開催される様になった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内入居者がほとんどであるが、他の、居宅介護支援事業所からの相談、入所も増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談は、何時でも受け付けている。入所前については、面会したり、空き次第連絡を入れる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅介護支援事業所からの相談が、ほとんどで、個人的に相談に来られることは、ほとんど無い。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の時間を大切にしているので、会話や歌ったり、レクリエーションをしたりしながら、教えたり教えられたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室に関しては、家族に任せているがコロナウイルスの影響で、面会をある程度制限し、面会場所の指定をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの要望は、ほとんど無い。通所介護利用者の中には、近所の人、知り合いの方がいらっしゃるので、面会していただいていたが、コロナウイルスの為、出来るだけ、控えていただいている。	コロナ禍前は、近隣のデイサービス事業所と共同で行事を行っていたが現在は自粛している。入居者やデイサービス利用者は地元出身の方で従前より顔馴染みの関係があり、交流する機会も多い。家族等との面会も感染対策を講じた上で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の調子で変わるが、支えあえるように声掛けしている。場合によっては、職員が、間に入る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどが、死亡の退所で、入院中は面会したりしていたが、面会禁止の病院がほとんどのため、家族に様子をうかがうなどの、コミュニケーションを取るようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	尋ねても理解できない方もいらっしゃる、出来るだけ、表情や行動で理解、把握するようにしている。	職員は入居者との日常の会話の中で、本人の思いの把握に努めている。入浴時の着替えの際などには本人に洋服を選んでもらうなど工夫をしている。把握した入居者個別の情報は、口頭や個人記録、日誌を活用して職員で共有し、支援に活用している。	新たに把握した入居者や家族に関する情報について、職員によって記録媒体が異なっている。今後、記録方法を平準化し、確実に情報を共有できる環境の整備に期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に話を聞いている。また、話せる人は、本人の意向を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを行い、その日の、体調や、心身の状態を見て過ごし方を判断している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の意見を聞き、モニタリング表を作成し、職員で話し合っている。	モニタリング及び介護計画の立案は管理者が行い、介護計画書の内容について職員会議で検討している。日々の経過記録表にも介護計画書の目標等を記載しており、介護計画書に沿ったケアの実践と、適切な記録が行えるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気が付いたことは、書くようにしているが、個人差が激しい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家に帰りたい。とおっしゃる方は、家族の協力がある方は、自由に外出したいいただいているが、コロナウイルスの為、今年度は、控えていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ事業所を通して、地域とつながるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかられていた病院をそのままかかりつけ医としている。また、園独自に、愛野記念病院との関係を持ち、月1回往診をして頂いている。急変時や、夜間の受け入れの対応もして頂いている。	入居前のかかりつけ医を継続し、かかりつけ医が遠方にある場合はホームの協力医を紹介している。受診時の送迎は職員が行い、毎月の便りや、電話にて家族へ報告している。月1回の訪問診療や週1回の理学療法士の訪問により、入居者の健康とADLの維持・向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診も、職員全員で行っているため、情報も、職員全員で共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	できるだけ早く退院出来る様に相談したり、地域連携室を訪ねる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、看取りについてのアンケートを実施したり、園が対応出来る最大のケアについて説明している。	ホームでは「意思確認書」を用いて入居時の意向を確認し、重度化した場合には、家族及び主治医と相談の上で「看取り介護同意書」に同意を得ている。ホームでの医療的ケアが難しくなった場合、入居者の状態に応じて入院するケースが多い	家族や主治医の協力のもと、ホームでの看取りを行う可能性がある為、看取りに関する指針やマニュアルの整備、研修等を充実できるよう今後の取り組みに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。職員全員が普通救命講習を受講するようにしている。昨年度は、コロナウイルスの為、講習会がなかった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練については、何度か行っている。さいがいについても、話し合いを行っている。	火災や地震を想定した避難訓練を実施している。職員は全員が避難訓練を経験できるよう交代で参加している。避難訓練当日の早出勤者がリーダーとなり、職員に指示を出すようにしている。緊急時には同法人系列の近隣事業所と協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、馴れ合いになっているところや、厳しい声掛けになっている時がある。	日頃より入居者の尊厳を尊重した声掛けを行うよう心掛けている。とっさに「待って」、「座って」などと声をかける事がある。コロナ禍により接遇に関する外部研修に参加ができておらず、対応方法についてホーム内で検討を行っている。	コロナ禍により外部の接遇研修等への参加は難しいと思われるが、オンラインでの参加や、ホーム内、同法人での内部研修等を検討し、入居者を尊重する声掛け方法やケアを振り返り実践に繋げていくことを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が決める場面も作っているが、重度化に伴い、決めることができない方もいらっしゃる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全部を利用者の希望どおりに、行うことはできませんが、出来る限り対応するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、家族が持ち込まれた物です。髪については、家族がカットしてくださったり、園でカットしたりと色々です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、能力におうじて出来る範囲で色々手伝って頂いている。	食事は同法人のデイサービス事業所の栄養士が献立を作成し、ホーム職員が調理している。入居者と一緒に茶碗ふきや、つわむき、梅干し作りなどを本人ができることを支援している。コロナ禍前は弁当を作って外で食べることもあった。食事形態は常食からキザミ食、ミキサー食まで入居者の状態に応じて提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的とはいえませんが、飲み物は、何種類か用意している。家族が持って来て下さったものは、利用者全員で頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、声掛け、誘導している。できない方については、職員が介助している。夜は、義歯の方は、洗浄液につけるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、記録をするようにしている。尿意便意のない方は、時間を見て誘導する事で、トイレでの排泄が出来る様に支援している。また、出来るだけ、布パンツにパットを使用してもらっている。	入居者毎に排泄チェック表を作成し、適宜、声掛けしトイレ誘導を行っている。最高齢の入居者以外は通常布パンツと尿取りパッドにて対応し、尿量に応じて尿取りパッドのサイズを変更するなど、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を行っているが、ほとんどの方が、下剤を処方して頂いている。様子を見て、医師と相談しながら、調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方はいらしゃらない。毎日入浴する事で、入浴が当たり前になっている。その方にあつた入浴が出来る様に支援している。	入浴は職員2人介助にて毎日行っている。立位が困難な入居者も安心して入浴ができるようリフトを設置している。入浴後は保湿剤を塗布し、皮膚の乾燥予防に努めている。入居者の好みに応じて湯の温度や順番を調整し、気持ちよく入浴ができるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促して生活リズムを整える様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬局で頂く薬の説明書をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日とはいかないが、出来るだけ、行事等工夫する様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い、全員とはいかないが、出来るだけ、季節や地域の行事に応じて戸外に出かける様にしているが、今年度は、コロナウイルスの為、ほとんど外出出来ていない。	以前はドライブで花見に出かけたりしていたが、コロナ禍により困難となった。現在は車から降りないようにして花見に出かけたり、庭先で花見を行ったりして外気浴ができるようにしている。ホームの窓からは周囲の景色や、保育所の園庭が見られ、入居者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理している。夏祭りや自販機のジュースを購入するくらいで、店での購入することはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族からかかってくることはあるが、手紙のやり取りを行う方はいらしゃらない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂からは、有明海が見渡せ、近所も見渡せる。すぐ下には、保育園のグラウンドがあり、園児たちが遊ぶ姿や、運動会の練習風景を見ることができる。周りには、季節の花木を楽しむことができる。	共用空間は、毎日、朝食後に職員が交代で掃除機かけ、モップかけ、トイレ掃除を行い、清潔を保持している。感染対策として、定期的な換気と消毒を行い、テーブルにはアクリル板を設置している。壁面には入居者が製作した貼り絵などを飾り、季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをいろんなところに置いており、それぞれに応じて好きなところに座って頂けるようにしている。居室に関しては、自由出入りできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋作りについては、家族にお願いしている。持ち込みも色々です。	居室は、毎日、朝食後に職員が交代で掃除機かけ、モップかけを行い、清潔を保持している。全室センサー付きベッドに変更し、動きをパソコンで感知できる為、入居者のプライバシーを保護しつつ、安全面でも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて配置や補助具等を利用している。		